執筆者・まえがき

●「イチロー型医師」を目指す君に！

ホスピタリストは決して特別なスペシャリストではありません．やっていることは，内科医として「極めて当たり前」のことばかりです．でも，「今やそれなしで病院が回らない」までにホスピタリストがアメリカの臨床システムに浸透しているのは，本文解説で述べたとおりです．また最近の日本でも，「ホスピタリストのことをもっと知りたい」という声は引きも切りません．

それだけホスピタリストが日米ともに求められている，ということこそ，「そういった当たり前の内科医がいかに重要か」の証左ではないでしょうか．私は現在，『イチロー型医師になろう！』というタイトルの連載をもっています．イチローがなぜ凄いのか．それは，「投げる・打つ・走る」といういわば野球の基本すべてを，高いレベルでこなせるからだと思います．病歴聴取，身体診察，そして臨床推論という「内科医の基本すべて」をきっちりとこなせる医師こそが，ホスピタリストの目指す姿だと，私は考えます（イチローレベルを目指すということであって，私自身がそのレベルであるという意味では，決してありません．念のため）．

本書の中で，私自身が米国で学んできた「ホスピタリストのエッセンス」をできる限り抽出しました．出典にはこだわらず，現場で行われる「アテンディング医師の口述教育」のつもりで書いたのが，本書です．「イチロー型医師」を目指す若いドクターの一助になることを，願ってやみません．

2018 年 1 月吉日

共　著　石山 貴章